



# 11月定例会個人質問

20人の議員が、市政に対する一般質問を行いました

本会議では、事前申し込みによる手話通訳を実施しています。



## ライブ・録画配信の視聴について

本会議は、ライブ・録画配信ともに映像でご視聴いただけます。

また、常任委員会と特別委員会についても、ライブ配信を映像でご視聴いただけます。

配信については、左のQRコードまたは「彦根市議会インターネット映像配信」にてご覧ください。(https://www.hikone-city.stream.jfit.co.jp/)

11月定例会からは彦根市YouTubeチャンネルでも本会議映像をご視聴いただけます。



▲彦根市議会インターネット映像配信はこちら



▲彦根市YouTubeチャンネルはこちら

## 各議員の質問をQRコードから見る

各議員ページ右上のQRコードを読み取っていただくと、それぞれの議員の質問内容に関する録画映像配信ページにつながります。



長崎 任男議員

**Q** 西清崎の耕作放棄地の現状についての認識は

**A** 荒廃した農地が増大していると認識している



### その他の質問

- ・限界集落はあるか
- ・住民の過半数が65歳以上で構成される地域は
- ・準限界集落数は
- ・限界集落（準限界集落）について危機感はあるか

**Q** 西清崎地区は限界集落化の不安やイノシシ等の獣害により耕作放棄地が増えていることを懸念し、集落で対策を話し合い、新ごみ処理施設誘致の公募に参加した。候補地決定後、新たに耕作を止めた農家があると聞いているが、市の認識は。

**A** 西清崎地区での耕作放棄地増加の要因は、農業従事者の高齢化、後継者不足、鳥獣被害である。農地の受け手が不足する状況下で、ほ場が未整備あるいは土地条件の悪い農地を中心に荒廃が進んでいると認識している。

**Q** 令和6年11月5日に彦根愛知犬上広域行政組合より方針転換が発表された。地域が取り残され限界集落化する可能性に対し、市はどのように考えているか。

**A** 広域行政組合からは、新ごみ処理施設の候補地として今日まで協力をいただき感謝していると聞いている。市としても地域から伺った意見は組合と情報共有していく。



▲新ごみ処理施設の候補地であった西清崎の土地



奥野 嘉己議員

**Q** 彦根城世界遺産登録に向け  
方向性を問う

**A** 井伊家の特別な立場を推薦書  
素案で言及する



その他の質問

- ・選挙ポスター掲示板の設置場所、設置方法の見直しについて
- ・原付向けひこにゃんナンバープレートについて

**Q** 世界遺産登録に関する費用総額はいくらか。

**A** 平成20年度から令和5年度までで、約1億317万円。

**Q** ユネスコの諮問機関イコモスから事前評価が公表され、当市は「一歩前進」と評価し、今後も彦根城の単独推薦に向けて活動するとの方針が示された一方、他城との連携によるシリアル推薦についての指摘を受けた。シリアル推薦<sup>(※)</sup>についての考えは。

**A** イコモスから認められた価値のコンセプト「大名統治システム」の物証としての推薦手法にはシリアル推薦はそぐわず、彦根城単独推薦するのが望ましいと考えている。

**Q** 日本全体の統治のなかで、井伊家の位置づけが必要ではないのか。

**A** 井伊家の立場を説明することを推薦書素案で言及する。

※シリアル推薦とは、地理的につながっていない2つ以上の物件を、ひとつの世界遺産として推薦する方式のことです。



黒澤 茂樹議員

**Q** 稲枝駅西側地区の市街化区域  
編入の見通しは

**A** 令和7年3月末には市街化区域  
編入が実現できると考える



その他の質問

- ・金亀公園テニスコートの使用料の改正、金亀公園駐車場の有料化について
- ・農村下水道の公共下水道への接続について

**Q** 稲枝駅西側地区の市街化区域編入への現状と見通しは。

**A** 稲枝駅西側地区で整備を進めている市道芹橋彦富線と都市計画道路稲枝西口停車場線、県道愛知川彦根線に囲まれた約7haについては、市街化区域編入のため、滋賀県により区域区分の見直しが進められており、都市計画素案が公表され、11月2日にこれに対する公聴会が開催された。引き続き県により手続が進められ、令和7年2月に予定されている滋賀県都市計画審議会での議決を経て、順調に進めば令和7年3月末には当該地の市街化区域編入の都市計画決定がされる見込みである。

**Q** 令和7年3月末で確定ということで間違いないか。

**A** 県の素案も公表され、市街化区域編入はほぼ実現できると考えている。



▲稲枝西口停車場線の現状





野村 博雄議員

**Q** 市立病院の救急診療体制や満足度の向上、利用しやすい駐車場への取組は

**A** より患者さんに寄り添った対応ができるよう検討し取組を進める



その他の質問

- ・新成長産業育成と地場産業振興への取組について
- ・後援名義について
- ・雪対策について

**Q** 彦根市立病院の夜間・休日の救急診療体制は。

**A** 多職種の医療スタッフが当直対応し、適宜、専門各診療科の待機医師とも連携、地域医療連携体制の構築への取組も進める。

**Q** 利用者の満足度向上への取組は。

**A** 患者意見検討委員会や患者満足度調査の実施、接遇研修の取組等、満足度の向上に努め、また患者満足度調査で診察および会計の待ち時間に関する不満の声があり、今後改善を検討する。

**Q** 駐車場が大回りをしなくてはならないレイアウトとなっており改善できないか。

**A** 歩行者の安全性やロータリー内の車両通行の安全かつ円滑な流れの確保の観点から、やむを得ない構造であるが、今後標識の更新の際等に検討していきたい。



▲彦根市立病院の駐車場レイアウト



中野 正剛議員

**Q** 自転車用ヘルメット購入費に補助を出してはどうか

**A** 着用率向上のために購入補助について調査研究していく



その他の質問

- ・災害時の避難所受付にマイナンバーカードの利用を
- ・彦根城パーク・アンド・バスライドについて

**Q** 彦根市での自転車用ヘルメット着用率はどれくらいか。

**A** 最新の令和6年7月時点で滋賀県は11.1%で47都道府県中30位、彦根市の着用率も同様であると認識している。

**Q** 観光振興の観点からも彦根市での自転車用ヘルメットの着用率向上は必要ではないか。

**A** 自転車利用者のヘルメット着用率が向上し、自転車での移動が安全でしやすいまちという認識が広がれば、日本人だけではなく外国人の観光目的地として選ばれる可能性が高まるとともに自転車利用者も増えると考えている。こうした観点からも着用率が向上するよう取組を進めていく。

**Q** 自転車用ヘルメット購入に補助を出してはどうか。

**A** 県内でも購入費補助を行っている自治体があることは把握しているので、他市の動向を見極めながら効果的で実施可能な手法について調査研究していく。

自転車用ヘルメットの着用率トップ10  
(都道府県別、2023年7月時点)

1	愛媛	59.9%	6	山梨	26.2%
2	大分	46.3%	7	佐賀	23.4%
3	群馬	43.8%	8	山口	21.5%
4	鳥取	30.9%	9	茨城	21.3%
5	三重	26.5%	10	石川	20.7%

全国平均 13.5%

▲都道府県別自転車用ヘルメットの着用率トップ10